⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の1,068億円の受取超過から、733億円の支払超過となった。収入は、前年同期（3,012億円）に比べ、299億円増加して3,311億円となった。一方、支出は、前年同期（1,944億円）に比べ、2,101億円増加して4,044億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入2,335億円、支出１兆6,670億円、差引き１兆4,335億円の支払超過であって、前年同期（１兆4,424億円の支払超過）に比べ、90億円支払超過額が減少した。

保険の収支は、収入８兆344億円、支出16兆646億円、差引き８兆302億円の支払超過であって、前年同期（６兆926億円の支払超過）に比べ、１兆9,376億円支払超過額が増加した。

３　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成21年度第１・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	240,254	187,600	52,654	275,307	171,150	104,158
国債(１年超)	239,658	187,222	52,436	274,695	170,756	103,939
借入金	596	378	218	612	393	219
国庫短期証券等	1,102,524	875,646	226,878	896,784	847,761	49,023
国庫短期証券	988,524	760,402	228,122	781,584	732,561	49,023
一時借入金	114,000	115,244	△ 1,244	115,200	115,200	0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、５兆2,654億円の受取超過であって、前年同期（10兆4,158億円の受取超過）に比べ、５兆1,504億円受取超過額が減少した。国債（１年超）の収支は、発行23兆9,658億円、償還18兆7,222億円、差引き５兆2,436億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入596億円、償還378億円、差引き218億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、22兆6,878億円の受取超過であって、前年同期（４兆9,023億円の受取超過）に比べ、17兆7,855億円受取超過額が増加した。国庫短期証券の収支は、発行98兆8,524億円、償還76兆402億円、差引き22兆8,122億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆4,000億円、償還11兆5,244億円、差引き1,244億円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 87,934	△ 103,710	△ 191,644
特別会計等	△ 139,362	157,400	18,038
財政投融資	△ 9,927	17,163	7,237
社会資本整備事業	△ 14,335	8,948	△ 5,386
外国為替資金	△ 733	△ 22,969	△ 23,702
保険	△ 80,302	84,984	4,681
その他	△ 34,065	69,274	35,209
小計	△ 227,296	53,690	△ 173,605
国債等	52,654	△ 22,761	29,893
国債（１年超）	52,436	△ 22,423	30,012
借入金	218	△ 338	△ 120
国庫短期証券等	226,878	△ 30,929	195,949
国庫短期証券	228,122	△ 26,431	201,691
一時借入金	△ 1,244	△ 4,498	△ 5,742
合計	52,236	—	52,236
調整項目	△ 3,456	—	△ 3,456
総計	48,780	—	48,780

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成21年度第１・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	872	△ 29,222
特別会計の債券売・買（△）	25,090	26,139
財政投融資	32,270	47,640
国債整理基金 △	7,180	△ 21,501
その他 △	77,292	△ 39,390
計 △	51,330	△ 42,473

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、５兆1,330億円の支払超過であって、前年同期（４兆2,473億円の支払超過）に比べ、8,857億円支払超過額が増加した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達６兆8,191億円、資金返済６兆7,319億円、差引き872億円の受取超過であって、前年同期の２兆9,222億円の支払超過から受取超過となった。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、２兆5,090億円の受取超過であって、前年同期（２兆6,139億円の受取超過）に比べ、1,049億円受取超過額が減少した。財政投融資は、３兆2,270億円の受取超過であって、前年同期（４兆7,640億円の受取超過）に比べ、１兆5,370億円受取超過額が減少した。国債整理基金は、7,180億円の支払超過であって、前年同期（２兆1,501億円の支払超過）に比べ、１兆4,321億円支払超過額が減少した。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、７兆7,292億円の支払超過であって、前年同期（３兆9,390億円の支払超過）に比べ、３兆7,902億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（４兆8,780億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（3,456億円の支払超過）を除いた収支は、５兆2,236億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、５兆1,330億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（２兆3,773億円）に比べ、906億円増加して２兆4,678億円となった。